

3月24日日本会議 予算修正案再議否決後 西哲史質疑

◆24番（西哲史君） （登壇）堺創志会の西でございます。再度この予算について質問させていただきたいと思いますが、先ほど来、時間をまるで消化をするかのように、市長、副市長は聞かれてないことをたくさん答えておられますので、ぜひ趣旨を捉まえて的確にお答えいただきたいというふうに思いますが、健康増進施策を減額すべきではないというふうに再議書の最後を書いてあるということは、市長の高度なユーモアのセンスを高く評価をしたいなというふうに思うわけでありますが、質問させていただきたいと思いますが、改めてアスマイルではなく、この独自のオプションがなぜ必要なのか、御説明いただきたいと思います。

○議長（池尻秀樹君） これより答弁を求めます。

◎健康福祉局長（山本甚郎君） なぜオプションが必要なのかということでございますけれども、先ほど来答弁させていただいておりますが、今府のほうでやっているアスマイルにつきましては、府民に対してやって、堺市民の個々のデータというものは分かりません。それで、オプションをつけると、堺市独自でいろんな催しの情報をお届けしたりアンケートをお取りしたりとか、そしてまたいろいろな健康活動をしていただいているその方々がどのようなことをしているのかと、例えば何歩歩いているのか、体重がどういうふうに変化したのかとか、そういうような個々人のデータも分かるようになります。それでオプションをつけて今後の堺市の健康増進施策にそれを活用していきたいというふうに思っております。以上です。

◆24番（西哲史君） 議長。

○議長（池尻秀樹君） 24番西哲史議員。

◆24番（西哲史君） データ取ることが目的で、参加者数を増やすことは別に目的じゃないということでもいいですか。

◎健康福祉局長（山本甚郎君） データを取ることだけが目的ではございません。データというのも、まずは堺市民の方個々人に健康活動をしていって行動変容をしていただいて、いわゆる健康寿命を延伸してもらおうと、要介護等認定率も少しでも下げていただくというのが一番でございます。そういうことを目的とする中で、アスマイルを使ってまずは登録していただいて、その登録していただいた方にその人が必要とされるであろう情報等を届けて、

それでその方の行動変容とか健康活動につなげていってもらいたいということで、そうしている中でいろんなまたデータが集まってきて、そのデータをまた今後の施策に生かしていきたいということで、データを求めるのがメインではございません。以上です。

◆24番（西哲史君） 議長。

○議長（池尻秀樹君） 24番西哲史議員。

◆24番（西哲史君） 違ったら言っていたきたいですけど、データをもらうことと、それを活用して施策を推進をしていく、そのために登録者を増やすということをおっしゃっているとと思うんですが、そもそもこの予算要求シートの成果指標、皆さん何て書きましたか。

◎健康福祉局長（山本甚郎君） 予算要求シートでございますね。配信したイベントの参加人数とか、イベントの配信回数とかというところを書いてございます。以上です。

◆24番（西哲史君） 議長。

○議長（池尻秀樹君） 24番西哲史議員。

◆24番（西哲史君） 予算審議なのに、とかでいいんですか。

◎健康福祉局長（山本甚郎君） 事業の成果や活動実績の測定としまして、配信したイベントの参加人数とイベントの配信回数を記載してございます。以上です。

◆24番（西哲史君） 議長。

○議長（池尻秀樹君） 24番西哲史議員。

◆24番（西哲史君） 今おっしゃった目的と全然違いますよね。

◎健康福祉局長（山本甚郎君） 成果指標として先ほど申し上げた配信したイベントの参加人数、イベントの配信回数というのがございますけれども、その選定した理由のところ記載してございますのが、より多くの市民が主体的な健康増進や社会参加・生きがい創出のきっかけとなるイベントに参加することをめざすためということで、主体的な健康増進・社会参加・生きがい創出のきっかけとなるイベントに参加していただいて、ひいては健康増進・社会参加・生きがいづくりに結びつけるというようなそういう考えの下に、成果指標として

先ほど申し上げた配信したイベントの参加回数というようなものを記載してございます。以上です。

◆24番（西哲史君） 議長。

○議長（池尻秀樹君） 24番西哲史議員。

◆24番（西哲史君） 聞いてることに答えてください。

◎健康福祉局長（山本甚郎君） 成果指標の配信したイベントの参加人数ということだけを捉まえたら、先ほど私が言いました趣旨目的というようなところとはちょっと違うようになるかも知りません。以上です。

◆24番（西哲史君） 議長。

○議長（池尻秀樹君） 24番西哲史議員。

◆24番（西哲史君） もう皆さんね、この議会の皆さんね、伊豆丸議員もそうですし、皆さん成果指標についてみんな議論してるんです。成果指標がイベントの参加人数なんですよ。皆さんの目的と違うじゃないですかって聞いてるんですけど、ちゃんと答えてくださいよ。

◎健康福祉局長（山本甚郎君） 成果指標として書いた参加人数というのは、先ほど言いました私のこの事業の趣旨目的とは違うと、そういうふうな見方になると思います。以上です。

◆24番（西哲史君） 議長。

○議長（池尻秀樹君） 24番西哲史議員。

◆24番（西哲史君） じゃあ皆さんは成果指標をめざさないということですか。それとも、どっちを達成したら成果があったと言えるんですか。おっしゃってること、答弁が間違えてたということでもいいですか。

◎副市長（中野時浩君） すみません、手元がないので局長の答弁踏まえてですけど、データはおっしゃるように数が少ないと、おっしゃるような分析というのは蓄積しないとできない。翌年度予算については5,000人増やした、今が5,000人弱ですから1万人。

当面できることは、社会参加をする種類が多いほど健康に寄与するというデータがそれこそおっしゃるように日本・世界でありますので、関心があってもなかなか参加できない、そういうところをアンケートで把握をし、そういう方々に市がやってるあるいは関連している団体がやってる参加しやすい事業を御案内するというのが最も今可能性の高い事業。

遠い目標は健康寿命の延伸とか要支援認定率の低下ですけど、当面、遠い目標と翌年度4年度にできることという、本人たちが参加したい事業に参画を促すというのが当面の成果であろうかと思います。

○議長（池尻秀樹君） 答弁者に申し上げます。質疑の要旨を的確に捉え答弁されるようお願いいたします。

◎健康福祉局長（山本甚郎君） 先ほど答弁させていただいたのと重複する部分がございますけれども、成果指標として書いたのが配信したイベントの参加人数ということでございます。それでその選定した理由として、これも申し上げましたけれども、より多くの市民が主体的な健康増進や社会参加・生きがい創出、これのきっかけとなるイベント参加をめざすということで参加人数ということを目指しておりますけれども、その心としては、健康増進・社会参加・生きがい創出、これのきっかけをどう与えて、それで実際にその行動を変容していただけるかということでございますので、そういう意味からしますと、私先ほど言ったのと趣旨目的は変わらないのかなというふうに思います。以上です。

○議長（池尻秀樹君） 24番西哲史議員に申し上げます。もう一度質問の内容を発言していただきますようよろしくお願いします。（「時間は使うんですか」と呼ぶ者あり）

今止めておきますので。24番西哲史議員。

◆24番（西哲史君） そもそも予算審議なのに予算要求シートを手元に持ってないって、そんな議会を冒涇したことが許されるのかというのはそもそもあるんですが、先ほど局長は成果指標にイベントの件数とおっしゃったんです。それが達成されれば、イベントの件数が目標を達成されれば、今堺市の事務事業評価なり予算要求の議論、EBPMの議論やってきたことからいけば、イベントの参加人数が目標を超えれば、この事業ちゃんと効果があったことになるんです。皆さんは一方でデータを取らなくてはいけない。そのために健康な施策を展開できる、アンケートを取るために必要だ、参加者を増やさなくちゃいけない、いろんな目標を掲げていらっしゃるんです。そのためにやらなくちゃいけないって予算総括でも答弁をされてた。

でも、予算要求シートの目標はイベントの参加件数です。イベントの参加ちゃんとやれば、効率的にちゃんと予算が適正に執行できてたという二重丸の評価になる。皆さんがおっしゃってることは全然違うことを目的として掲げておられませんか、矛盾してませんか

お聞きをしてくることにに対してちゃんと答えていただきたいと思います。

◎健康福祉局長（山本甚郎君） 先ほど副市長のほうから御答弁させていただいた部分はありますけれども、健康増進とか健康寿命の延伸、そしてまた要介護等認定率を引き下げるといのは、短期間ではなかなかその達成は難しいものでございます。それで短期的に考えた場合に、配信したイベントの参加人数での指標として測ろうと。その意図としては、これも先ほど来言ってますけれども、主体的な健康増進や社会参加、生きがい創出のきっかけとなるイベントに参加していただく、そのきっかけでもあって、また次の活動に期待できるところで、短期的な何らか指標としてはかれるものはないかというふうに考えた場合にこれを設定したということでございます。以上です。

◆24番（西哲史君） 議長。

○議長（池尻秀樹君） 24番西哲史議員。

◆24番（西哲史君） 時間がどんどんかかるんで嫌なんですけど、今局長がおっしゃってることは、これまでの成果指標、全会派が議論してきた成果指標の議論を根底から覆してますよね。指標は意味がないとおっしゃってるんですか。

◎健康福祉局長（山本甚郎君） 決して指標は意味がないとは申し上げておりません。最終的な大きな目標をはかるための指標とはちょっとずれてると思いますけれども、それは最終的な目標が短期間で達成できるようなものではないというところを踏まえまして、ここでそういう参加人数というような指標を掲げさせていただいたということでございます。以上です。

◆24番（西哲史君） 議長。

○議長（池尻秀樹君） 24番西哲史議員。

◆24番（西哲史君） 成果指標って年単位で表現されてるのに、短期間で達成されるものではないからそんな指標でいいんだって、そんなことでいいんですか。

○議長（池尻秀樹君） どなたが答弁されますか。

◎健康福祉局長（山本甚郎君） 活動指標として測定できるものでないと指標として使えませんので、それでその参加人数というようなことをさせていただいているというところで

ございます。以上です。

○議長（池尻秀樹君） 24番西哲史議員に申し上げます。先ほどから同じ議論が繰り返されているようでありますので、観点を改めて質問いただきますようお願いいたします。24番西哲史議員。

◆24番（西哲史君） 目的と一致しない成果指標を書いているということです、皆さん。そのことを分かっておいてくださいね。

ところで副市長、さっき予算要求シートを持たずに予算審議に臨んだことについてコメントないですか。

◎副市長（中野時浩君） パソコンに入れてきたつもりだったんですけど、表面があってちょっと裏面のところがなくて、事業目的とか積算が見れてということで、その点は申し訳ないと思います。

◆24番（西哲史君） 議長。

○議長（池尻秀樹君） 24番西哲史議員。

◆24番（西哲史君） ちゃんと皆さんにおわびをしたほうがいいと思いますよ。予算審査が皆さんする側なんですよ、依頼をする側なんですよ。何かありますか。

ではお聞きをします。次にお聞きをしますが、独自ポイントをすることによって人数が増えるというふうにはずっと答弁をされてますが、資料1示してください。白いグラフですが。

大阪府が堺市を經由して我々に配ったデータですが、アスマイル参加者の状況、上が5市が独自ポイントをやっている市ですね。何かすごい多いように見えますけど、実は右端は5%です。ひどいグラフですね。独自ポイントをやっている豊中市とやってない泉南市の差を示してください。

◎健康福祉局長（山本甚郎君） 約0.1%でございます。

◆24番（西哲史君） 議長。

○議長（池尻秀樹君） 24番西哲史議員。

◆24番（西哲史君） つまり独自ポイントをやっている効果というのは、この表を見る限り0.1%しかないということではないですか。

◎健康福祉局長（山本甚郎君） その2市での差は0.1%ですけれども、ほかのところもありますので、その特定の2市だけがアスマイルをしたときの全てを表しているということではないと思います。以上です。

◆24番（西哲史君） 議長。

○議長（池尻秀樹君） 24番西哲史議員。

◆24番（西哲史君） 教育長に本当はお聞きをしたいんですよね、統計の見方というのをね。このような普通いろんな要素がパラメータが入るので、その差を見るのは、やってる一番低い市とやってない一番高い市の差を見るの、当たり前なんですよ。教育長に通告してないから聞けないんですけど、0.1%しか皆さん独自ポイントの差はないということなんです。

それにこんなに多額のお金を使うということでもいいですか。

◎市長（永藤英機君） 答弁側はグラフ出せないの、先ほどの皆さんちょっと思い浮かべていただきたいんですけど、大阪府から提供、出ますか。

○議長（池尻秀樹君） 資料出してください。

◎市長（永藤英機君） 右下に開始年月書いてますかね。豊中市、令和3年からスタートしてます。このデータが令和3年9月末時点です。私たちが今回予算再議ということで、また原案で今議論していただいています、お認めいただいたならば、直ちに令和4年度準備に入る予定です。そこから効果的な数字が出るまでに時間はかかるとしています。

この一番上のところは、ちょっと見にくいですけど、茨木市なんですね。4.7%です。もちろんポイントをつけております。

私も再議という事態は重く私自身も受け止めておまして、これをお認めいただくのであれば、原案をお認めいただくのであれば、これはもう何としても結果が出るように私自身も先頭に立って取り組まなければいけないと考えております。ですから、今ポイントを付与している自治体は上位にありますが、堺市としてもこの上位にきちんと食い込む、今真ん中より少し下だと思いうんですけど、成果を出すように私自身も取り組んでまいります。

◆24番（西哲史君） 議長。

○議長（池尻秀樹君） 24番西哲史議員。

◆24番（西哲史君） だから関係のないこと答えてほしくないんですが、じゃあ交野市、さっき市長は令和3年からやってるから豊中市は参考にならないかのようにおっしゃったんですが、じゃあ交野市は随分前からやってるようですが、その交野市と泉南市の差、言ってください。

◎市長（永藤英機君） 今1つの市の例を出されましたけど、市によって取組状況というのは様々だと考えております。堺市は今数値が低いというのは事実ですから、今回この事業を行うことによって登録者数を上げたいというのが思いです。ですので、特定の市の事情というのはお答えすることはできません。

◆24番（西哲史君） 議長。

○議長（池尻秀樹君） 24番西哲史議員。

◆24番（西哲史君） 聞いてることに答えていただきたいです。

○議長（池尻秀樹君） 市長の答弁はそれでよろしいですね。

一応答弁はこれでよろしいということなんですけども。（発言する者あり）

そのポイントですね。資料を出していただけますか。

差は何ポイントですかということの答えをお願いします。

どなたが答弁されますか。

◎市長（永藤英機君） この私も今手元にそのグラフがありますが、グラフの数字かなり細かくなっておりますので、ちょっと詳しい数字まで見えませんが、約2%ほどだと思います。以上です。（発言する者あり）

○議長（池尻秀樹君） もう一遍答弁お願いします。

◎市長（永藤英機君） 0.2%ほどだと認識しています。

◆24番（西哲史君） 議長。

○議長（池尻秀樹君） 24番西哲史議員。

◆24番（西哲史君） つまり前からやってる交野市でも、やってない泉南市との差は0.

2%なんです。そこに700万円使おうという案を皆さんは出されてるということなんですよね。独自ポイント、それだけの効果じゃないとおっしゃるかもしれないですけども、独自ポイントに700万円かけたとしても0.2%増えるだけ。いろんな施策があるというのはあるんですけど、こんなのは統計の素養があったら当然分かるんで、いろんなパラメータがあるから一番低いところとやってない一番高いところを比較するのは当たり前。茨木市と比較したら、それは政策評価として変なことになりますから、そこはあまり強くおっしゃられないほうがいいと思いますよ。

次お聞きをしますが、データを皆さんはもらわなくちゃいけない、もらわなくちゃいけない、偏ってるデータだと局長、委員会でお認めになりましたよね。

◎健康福祉局長（山本甚郎君） アスマイルの登録している方、この方は健康には関心が高い方が多いだろうというようなところで、そういった意味で偏ったというか、一定のグループの範囲のデータというようなことを申し上げたかなと思います。以上です。

◆24番（西哲史君） 議長。

○議長（池尻秀樹君） 24番西哲史議員。

◆24番（西哲史君） はっきり言っていただきたいんです。偏ってるデータですか、偏ってないデータですか。

◎健康福祉局長（山本甚郎君） ちょっと断定することは難しいかなと思います。現状登録している方は健康に関心がある方が多いだろうとは思いますが、例えばポイントを大阪府のほうもやっていますし、それで加入されてる方も確かにいらっしゃると思いますので、だから断定というのはちょっと私としては現時点においてできないかなと思っております。以上です。

◆24番（西哲史君） 議長。

○議長（池尻秀樹君） 24番西哲史議員。

◆24番（西哲史君） なぜそこから議論しなきゃいけない。委員会で偏ってるって答えてますからね。答弁撤回するということですか。

◎健康福祉局長（山本甚郎君） そういう一定の人が入ってる、そういう人の可能性が高いということは思っております、そういう意味でございます。以上です。

◆24番（西哲史君） 議長。

○議長（池尻秀樹君） 24番西哲史議員。

◆24番（西哲史君） 偏ってるって答えてますけど、答弁修正をするかどうかについてお答えください。

◎健康福祉局長（山本甚郎君） すみません、今その議事録手元にはないんですけども、偏ってるという言い方は私はしてなかったように思うんですけども、すみません。

◆24番（西哲史君） 議長。

○議長（池尻秀樹君） 24番西哲史議員。

◆24番（西哲史君） 分かりました。じゃあ速記録見れないんで、我々は、そうおっしゃるので構わないですが、ただし今、健康に関心がある人だけやっておっしゃったので、健康に関心ある人だけが登録をされていて、皆さんは偏ってると思われえないということですよね。健康に関心ある人、もしくはその周辺にいらっしゃる人が登録されてるとも委員会で答弁されてますが、それは偏ってない、偏ってるとは言えないということですよね。一応確認させてください。

◎健康福祉局長（山本甚郎君） 偏ってるという言葉を使えば、偏ってる可能性はあると思ってます。以上です。

◆24番（西哲史君） 議長。

○議長（池尻秀樹君） 24番西哲史議員。

◆24番（西哲史君） 教育委員会の教育長に聞きたいんですよ、本当は。中3の先生であれば当然分かる話なんです、数学の先生であれば。一部のデータ、標本が抽出性に欠けるんですよ。健康のテーマに関わるアプリなのに、健康に関心がある人、もしくはその周辺にいる人が登録されているので明らかに偏ってる。それが言えないのであれば言えないってはっきり言ってほしいんですけど、どちらとも言えないようですので、非常に残念です。

このデータ、何かお金を払ったらもらえる、お金を払えなかったらもらえない、その違いは何ですか、説明してください。

◎副市長（中野時浩君） 今回市町村オプション参加するための費用として、イニシャルが77万円、ランニングが380万円程度。この380万円はポイントを付与するポイントの原資が275万円でしたけれど、そのポイントを付与するだけじゃなく、先ほど来、御答弁申し上げますように、月2回のお知らせ機能、それから年に4回のアンケート。それからポイントを付与するとしましたら、いわゆるコールセンターといいますか、お問合せにお答えするというようなことも運営していただくというようなことが入ってますので、いろいろな要素が入ってる運営費なので、評価難しい面もあるかと思えます。

そういったことで、市町村オプション、データの蓄積は先ほども私申し上げましたけれど、やはり一定数増えないということと、それから何の分析に使うかによって、先ほど来、偏ってる偏ってないという話ありますけれど、やはりそういう一定アスマイルということに登録しようという方だという前提で、やはりその数字は見なきゃいけないし、大阪府の分析もそうでない一般的な例えば特定健診の受診率と登録されている方の受診率というふうに比べてますので、やはりデータというのは抽出したあるいは頂いた属性というか、そこをやはりきちんと念頭に置きながら比較する必要があるかと思えます。

◆24番（西哲史君） 議長。

○議長（池尻秀樹君） 24番西哲史議員。

◆24番（西哲史君） 聞いてることに答えていただきたいんですが、お金を払えたらもらえるデータ、払わなくても提供してもらえるデータ、違いについて御説明ください。

◎健康福祉局長（山本甚郎君） お金を払わなければもらえるデータというのは市町村オプションを付加していない場合ですけれども、これは堺市民の登録者の平均の数値というのをもらえるデータでございます。

それで市町村オプションを付加した場合には、先ほど来議論ありましたように、Aさん、Bさんのバイタルデータ、また脈拍とか血圧とかあるいは身長・体重とかウォーキングの歩数とか、そういうのを平均ではなくてAさん、Bさんの数値として頂けるということになります。以上です。

◆24番（西哲史君） 議長。

○議長（池尻秀樹君） 24番西哲史議員。

◆24番（西哲史君） つまりお金を払わなければ平均値のデータがもらえて、市町村オプ

ションを付加してお金を払ったら個人データ、30項目と聞いてますが、個人データをもらえるということだと思いますが、我々府民なんですよね。何でお金払わないと府民共有財産のデータをもらえないんですか。大阪府は民間企業ではないですからね。

◎健康福祉局長（山本甚郎君） 個々人のデータを頂く、それは現状の大阪府が有しているデータでは堺市個々人のデータということにはなっておりませんで、それは別にそういうような作業をして抽出して、それで頂くようになります。その作業としてそういうお金が必要やということになりますし、またそもそも先ほどの答弁のお答え的なところになりますけれども、オプションをつけた場合の費用として今回は事業費が約738万円ですけども、これオプションをつけたら先ほど言ってるデータももらえます。でも、この事業費738万円の中でシステム利用料というのがまずあります。それはポイントに付与する経費、そして市独自の分析やお知らせ、アンケートに係る経費、それから独自サービスに係るコールセンター機能に関する経費、これが1つでございます。

そしてあと、事業費738万円の中でポイント付与が275万円で、そしてシステム改修として77万円で、先ほど言いましたシステム利用料として386万円、そのシステム利用料としてポイントの付与に係る経費、ポイントそのものではなくて付与に係る経費と市独自の分析、お知らせ、アンケート、コールセンターというところで合計738万円、これがオプションをつける際に要る経費ですけども、これによりまして個々人のデータができるということになります。以上です。

◆24番（西哲史君） 議長。

○議長（池尻秀樹君） 24番西哲史議員。

◆24番（西哲史君） 我々は府民じゃないんですか。なぜ府民共有の財産がもらえないんですかということをおっしゃっていろいろお答えをいただいておりますが、途中でおっしゃっているのは、何か堺市だけのデータになってないから、大阪府全体のデータだから、堺市の分だけ抽出、抜き出す、そういうことをおっしゃってるんですよね。あとは何かアンケート代とかいろいろ違うことを御答弁されてるんです。

380万円、本当にこれ見合う値段なんですか。高いなと思うんですよね。大阪府のデータを堺市の分だけ抽出する加工賃だとしたら、380万円、高いですね。適正だと思われませんか。

○議長（池尻秀樹君） どなたが答弁されますか。

◎副市長（中野時浩君） 先ほども御答弁申し上げましたとおり、分析するデータを抽出し

でもらう堺市独自のシステムをつくるのにイニシャルが77万円で、そのランニングって多分評価あると思います、その高い安いは。

先ほどもありましたけれど、個人情報ですので、それぞれ手続を経て堺市に渡す渡さない、そこはもう当然の仕組みとしてやらなきゃいけないですけど、大阪府もアスマイルの事業を民間事業者へ委託をしております。その民間事業者へ先ほど申しあげましたコールセンターとか機能とか、いろんな日々のメンテナンスもお願いしますので、我々もこの予算要求に当たっては一定交渉して今の価格になっておりまして、気持ちとしたら西議員と同じ、幾らかでも安くというそういう気持ちで交渉してまいりましたけれど、現状が大阪府が委託しているそういう事業者ですとか、大阪府にいろいろ調整していただいた結果だということ、今この金額だというふうに理解して、ぜひそこは御理解いただきたいと思います。

◆24番（西哲史君） 議長。

○議長（池尻秀樹君） 24番西哲史議員。

◆24番（西哲史君） まずちょっと今お聞きをする前にちょっとお聞きしたい。ランニング77万円っておっしゃったんですが、イニシャルでしょう。正確に答えていただきたいんですよ、これ予算審査なんで。予算要求シートにちゃんと書いてありますからね。やっぱりお持ちにならないことの弊害が出てくるんだと思いますが、この386万円、システムの利用料かかるんですね。今おっしゃった業者と交渉したから安くなるって、またおかしな議論をされてるなと思いますが、誰がこの価格の適正、適正と言えるんですかというふうにお聞きをしてるんですけど、副市長に聞くと違う話になるんで、局長どうですか。

◎健康福祉局長（山本甚郎君） 適正かどうかということでは先ほど副市長も御答弁しましたように、適正価格というのはなかなかこの世界ないと思いますので、それでその人によって適正か否かというのは微妙に変わってくるというふうには思っております。以上でございます。

◆24番（西哲史君） 議長。

○議長（池尻秀樹君） 24番西哲史議員。

◆24番（西哲史君） 適正かどうか人によって違う。ほかの堺市はね、私が申し上げるまでもなく100万円超えたら皆さん入札なんですよ。これ入札じゃない、当然ですよ。これが適正かどうかという判断をもっとちゃんと厳密にやらないといけないんじゃないですか。どうですか、局長。

◎健康福祉局長（山本甚郎君） この額につきましては、我々としては適正であるというふうに考えて、これを予算要求して、できるならばこれでやっていきたいというふうに思っております。以上です。

◆24番（西哲史君） 議長。

○議長（池尻秀樹君） 24番西哲史議員。

◆24番（西哲史君） 1者随契で払うのを我々としては適正であると判断した根拠を示してください。

◎健康福祉局長（山本甚郎君） こういうものの適正性というのは、なかなかその根拠を示せるものはございませんけれども、まず大阪府のほうがここで委託契約してつくり上げていったもので、一定大阪府の中でそういう適正性というのは担保できていると思います。

それで、そういう基盤ができた後に43市町村、任意に参加できるという形になっておりまして、そこでの金額設定でございますので、そういった意味では一定の適正性は担保されているのかなというふうに思っております。以上です。

◆24番（西哲史君） 議長。

○議長（池尻秀樹君） 24番西哲史議員。

◆24番（西哲史君） 予算の査定は大阪府が適正と思ったら適正なんですか、財政局長。

◎財政局長（中井孝一君） お答えいたします。

本件、随意契約が想定されておりまして、本市の随意契約のガイドラインにおきましても、やはり競争入札のような競争性が働きにくい契約形態が想定されますので、しっかりと例えば国やほかの地方公共団体の事例等を参考とし、価格の妥当性、合理性について十分検討の上、価格交渉を行う等により金額の契約を行うこととしております。

今回におきましても、大阪府の活用されておりますアスマイルという事例でございますので、まずは大阪府のその事例は1つ参考とさせていただいた上で、業者のほうとも大阪府を通じて交渉されておるということをございまして、その上で適正かつ妥当な金額での予算要求であったというふうに考えておるところでございます。以上でございます。

◆24番（西哲史君） 議長。

○議長（池尻秀樹君） 24番西哲史議員。

◆24番（西哲史君） おっしゃってることは正しいんですけど、聞いてることに答えてないですね。

◎財政局長（中井孝一君） 繰り返しの答弁になりますけれども、このガイドラインに基づきまして、私どもも価格の妥当性、合理性については部局のヒアリング等において確認をした上で予算計上させていただいたというものでございます。以上でございます。

◆24番（西哲史君） 議長。

○議長（池尻秀樹君） 24番西哲史議員。

◆24番（西哲史君） さっきの局長の答弁と全くずれてますが、健康福祉局長、他事例と比較したなんてさっき全くおっしゃいませんでしたけど、どうですか。

◎健康福祉局長（山本甚郎君） アスマイルがその機能を使って今後の本市の健康増進施策へいろいろ活用できるのではないかと、アスマイルがいいのではないかとということで、まずアスマイルに目をつけたというか。それでその額につきまして、先ほど言いましたようなまず大阪府のほうで委託してつくったシステム、それをまた43市町村が乗られるようなところがあります。その金額設定というところで、交渉してちょっと額が変わったというのはおかしいんじゃないかというような話がありましたけれども、全市民を対象とするのか、そしてうちは高齢者だけで考えて高齢者の健康増進で使いたいからということで、18歳以上の全市民ではなくて高齢者の人数でどうにかできないかというような交渉の中で予算要求した額になってございます。以上です。

◆24番（西哲史君） 議長。

○議長（池尻秀樹君） 24番西哲史議員。

◆24番（西哲史君） 全く聞いてることに答えていただいてないですね。

この適正かどうかを他市と比較したり何か根拠材料をちゃんと示して386万1,000円のシステム利用料もしくは初期導入費用、正しいというふうに、適切だということはどう判断しましたか、全然参考材料お示しにならなかったじゃないですか。

財政局長は一般論おっしゃいましたよ。健康福祉局長は、この費用がなぜこの金額で適正

かどうか、根拠を示してくださいと言ってるんです。

◎健康福祉局長（山本甚郎君） アスマイルは大阪府がやってるアスマイル事業でして、他の都道府県とは違います。それでそのアスマイルの中でどういう金額でやるかというのは、基本的に1つの基準でやってるところでありますので、そういった経緯から、他市の事例と比較して云々というところは、このアスマイルにおいては、それは適用できないのかなというふうに思っております。以上です。

○議長（池尻秀樹君） 答弁者に申し上げます。質疑の要旨を的確に捉え答弁されるようお願いいたします。

◎健康福祉局長（山本甚郎君） 他市事例と見比べてこの予算額が妥当かどうかというようなことをしてはおりません。アスマイルを使う、そのためにはアスマイルを委託している業者との話になりまして、そこでの金額設定の中での予算要求ということになります。以上です。

◆24番（西哲史君） 議長。

○議長（池尻秀樹君） 24番西哲史議員。

◆24番（西哲史君） アスマイルを使う以上、その業者の言いなりの値段でやるしかないとおっしゃってますね。

◎健康福祉局長（山本甚郎君） 先ほども言いましたように言いなりではなくて、18歳以上の全市民かどうか、そういうところは高齢者に絞るわけで23万円というようなそういうような交渉をしております、うのみでやっているということでは決してございません。以上です。

◆24番（西哲史君） 議長。

○議長（池尻秀樹君） 24番西哲史議員。

◆24番（西哲史君） 根拠が全然示せてないんですよ。アスマイルを使う以上、アスマイルに言われたままやるしかないとおっしゃってる。

古い傷をひっかいて申し訳ないですが、上下水道局さん、昔チャットボットをすごい値段で出してきました、そのときは入札をしてみたら非常に安い値段になる事例があるから大

丈夫だ、ほかの事例を比較してみたら4分の1ぐらいの値段になりました。つまり、ちゃんと適正な手段なり適正な査定、他市の事例も似たような事例あるんですよ。さっき副市長がおっしゃったことと言えば、データを抽出して加工する、そのフローで考えて、私は個人情報の仕事もしてましたから分かってますが、そのフローも入れて本当にその値段になるのかというのは甚だ疑問なんです。堂々と健康福祉局としてはこの値段でやれるよと説明してほしいんですよ。できないじゃないですか。できてない。

上下水道局は当時いろいろ苦勞して頑張っていたら、予算よりもはるかに値下げしました。いろんなのを比較しました。上下水道局、出乗さん筆頭になって頑張っていました。今皆さんのおっしゃってることは、業者がそう言うてるから、少々値下げ交渉はしたかもしれないけれども、それよりちょっと安くなりませんかと言っただけでしょう、今のお話やと。全然適正な値段って誇りを持って言えてないじゃないですか。ちゃんと教えてくださいよ。

◎市長（永藤英機君） サービスを利用する場合は、どうしてもサービスの提供側の話になります。その中で私たちは最大限効果的な予算となるように交渉もいたしました。

私たちは今回のアスマイルに関する予算、効果があると考えて提案をしております。恐らく健康福祉常任委員会の中でも、例えばじゃあイベントの告知であったりアンケートを取る場合、一体幾らかかるんだという議論もあったかと思えます。私たちは今回この予算を再議に付してまでもう一度議論していただいていますから、この効果最大限発揮できるように行いたいと考えております。もちろん今予算計上している額以上の効果を出すという思いで取り組んでまいります。

◆24番（西哲史君） 議長。

○議長（池尻秀樹君） 24番西哲史議員。

◆24番（西哲史君） また関係のないこととお答えいただいているんですけどね。誇りを持ってこの数字が適正だという根拠を示してくださいというふうに申し上げてるんですが、違うことをおっしゃってるんです。

さっきおっしゃったウェブアンケートの話、値段比較してというのを健康福祉委員会でおかしな議論あったんですよ。郵便で送ったアンケートよりもアプリでやったら安くなるからこっちがいいんです。そんなおかしな議論ありますか。郵送代。皆さんがICTイノベーション頑張ってる、庁内でもグーグルフォームやってるじゃないですか。ウェブフォームやってるじゃないですか。その費用と比較をすべきであって、なぜ郵便と比較をしてアプリのほうが安いからお得です、よくあんな答弁できるなって委員会では思いましたけれども。

何かね、もう時間があまりありませんけれども、皆さんのこのアスマイルってどういう事

業か分かりますか。データを活用して市民の皆さんに適正な施策促していきたい、正確にデータを活用したいと皆さんおっしゃってるんです。だけどさっきからグラフの読み方おかしいんですよ。データの取扱い全然できてない。そして予算の根拠も数字を基にちゃんと説明できない。不安ですね。データに基づいて施策を行う人たちと思えない。郵便で送るアンケートとアプリアンケートを値段比較しちゃう人たち。非常に不安ですね。

データはちゃんと適切に取り扱っていただきたいんですよ。今日は通告してないから教育長に聞いてないですけども。もっとね、中3の統計の話なんです、これ、残念ながら。標本の抽出の仕方、偏ったデータを基に政策をしても仕方がない、しっかりと標本抽出をやる、これ統計調査法ですよ。何でこんな数学の話をここでしなくちゃいけないのか、甚だ残念です。

でもね、私は皆さんを信じてます。健康福祉委員会でも申し上げましたが、本当は皆さん分かっているんです。無理やり答弁しようとするからおかしくなる。大好きな堺市の職員さんがそんな統計のことや中3数学のことが分からないなんて信じれない。絶対に分かっている。そう信じたい。お願いしたいと思います。

だからそれを信じます。私は心の中で信じてます。そして予算も適正にしっかり使っていただきたい。使うのであれば、あるデータをしっかり分析をしてデータの使い方を正確にやっていただいて、市民の皆さんの健康増進にちゃんと貢献をしていただくことを期待して私の質問を終わりたいと思います。ありがとうございます。